

免許法認定講習（視覚障害領域）の現状と課題（その1）

-どのような者が受講しているのか-

○永井伸幸 相羽大輔 氏間和仁 田中良広 中野泰志 韓 星民 山本利和
 (宮城教育大学) (愛知教育大学) (広島大学) (帝京平成大学) (慶應義塾大学) (福岡教育大学) (大阪教育大学)

KEY WORDS: 視覚障害教育 認定講習 専門性

(目的)

特別支援教育に携わる教員の専門性について、平成 27 年 12 月 21 日に出された中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」において、平成 32 年度までにおおむね全ての特別支援学校の教員が免許状を所持することを旨とする旨が示された。視覚障害教育については、学部の教員養成課程で免許状を取得できる大学が少なく、教員として働き出した後に、教育委員会等が実施する免許法認定講習（以下、認定講習）によって視覚障害領域の免許を追加する方法が主な取得方法となっている。認定講習は、大学の授業のように受講者の学修の状況を踏まえた講義をすることは困難である。一方で受講者の経歴は様々であり、視覚障害を対象とする特別支援学校（以下、盲学校）で視覚障害児の教育に携わっている者から、視覚障害教育に関する知識も経験もない者までを対象に、同じ講義を行うという困難もある。

そこで我々は、認定講習の更なる質的向上を検討するため、認定講習受講者を対象に、その属性や認定講習で獲得した専門性等についての調査を行うこととした。今回は受講者の属性つまり「どのような経歴の者が受講しているのか」についての結果を報告する。

(方法)

質問紙法による調査を行った。質問項目は、現在の所属、勤務年数、視覚障害児の教育経験、視覚障害に関する講習等の受講経験、今回の講習を受講して身につけたと考える専門性、専門性に関する不安、等であった。

視覚障害領域の免許法認定講習担当者が、受講時に質問紙を配布した。教育委員会主催の場合には事前に教育委員会担当者に了解を得た上で、講義期間中に配布した。配布時に、匿名の質問紙であり、質問紙への回答は講習の評価とは無関係であることを口頭で述べた上で配付し、質問紙の表紙においても同様のことを示し、調査の趣旨に同意した場合のみ回答すれば良いことを明記した。全国各地の受講者 488 名から回答を得た。

(結果)

表 1 に、認定講習参加者の現所属別の一覧を示した。回答者 488 名中、通常の学級の担当者は 97 名 (20%) で、特別支援学校が 276 名 (46%)、そのうち盲学校は 50 名 (10%) であった。弱視学級担当者は 3 名、通級の視覚障害者担当は 1 名であった。何らかの形で視覚障害児の教育に現在携わっている者は 54 名 (11%) となる。また、通常の学級以外で障害のある児童生徒の教育にあたっている者が 337 名 (77%) と全体の 3/4 以上を占めていた。

図 1 に、受講者の勤務年数と受講人数の関係について示した。教員としての勤務年数が長くなるに連れて受講者が減少していく傾向が示された。また、初任からおよそ 10 年間に受講する傾向が高いことが示された。

(考察)

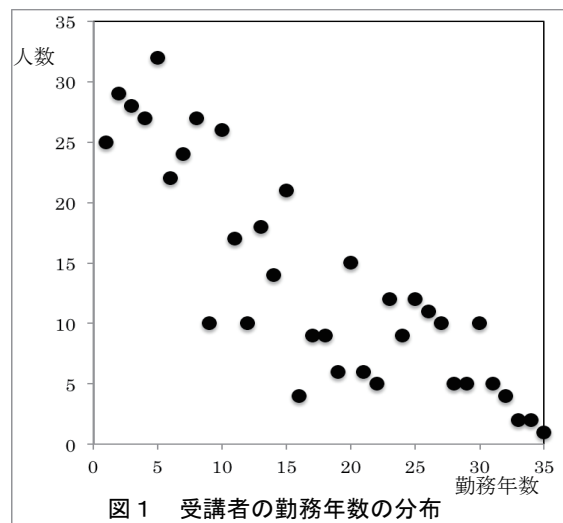
受講者の所属の現状から、特別支援教育に関わっている

者が受講する可能性が高いことが示されたが、視覚障害教育に関わっている受講者の割合は 11% であり、その割合は通常の学級からの受講者よりも少なかった。つまり、受講対象者は視覚障害児との関わりのない者が多数を占めていることが示された。それゆえ、視覚障害教育に関わっている者に対して専門性を高める講義が求められているのに対して、実際の講義内容は全くの初心者向けにしなければ大多数の受講者に取って理解が難しい内容になってしまうという問題点が示唆された。

勤務年数との関係では、比較的若い教員が、特別支援教育の免許領域を増やすために受講している様子が見られた。勤務年数が 10 年を超えると受講者数が低下する傾向が示されており、若い時には免許の種類を増やすことへの意欲が高く、年齢が上がるにつれて異動の機会も減少し、新たな免許の取得に対する意欲が低下することが推察された。

表 1 受講者の所属 (人)

特別支援学校 (視覚障害)	50
特別支援学校 (その他)	226
特別支援学級 (視覚障害)	3
特別支援学級 (その他)	84
通級 (視覚障害)	1
通級 (その他)	13
通常の学級	97
幼稚園・保育園	4
その他・無回答	10
計	488



本研究は、文部科学省科学研究費基盤研究 (A) (課題番号 16H02072) の支援を受けた。

(NAGAI Nobuyuki, AIBA Daisuke, UJIMA Kazuhito, TANAKA Yoshihiro, NAKANO Yasushi, Han SungMin, YAMAMOTO Toshikazu)